

## 教科別授業改善推進プラン（算数科）

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ICT機器等を活用して視覚的に理解させたり、ドリル教材を繰り返し取り組ませたりすることで計算技能を高めることができた。思考力を必要とする問題ではスモールステップで考えさせることで、主体的に学習に取り組める児童が増えた。
- ・継続的に、ステップアップ学習や東京ベーシックドリルを活用したり、算数力アップ教室や土曜補習教室を活用したりすることで、計算技能の向上や知識の定着を図ることができた。

#### (2) 課題

- ・自分の考えをノートに書ける児童は増えてきているものの、粘り強く考えようとしたり、多様な解決方法を考えようとしたり、筋道立てて順序よく考えたりできる児童が少ない。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率(領域別、観点別経年比較)

評価の記号は、平均正答率が目標値を「△…上回っている」「▼…下回っている」

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	<b>領域別</b> ・数と計算△ ・図形△ ・変化と関係△・データの活用△ <b>観点別</b> ・知識・技能△ ・思考・判断・表現△ ・主体的に学習に取り組む態度△	/	/
第5学年	<b>領域別</b> ・数と計算△ ・図形△ ・変化と関係△・データの活用△ <b>観点別</b> ・知識・技能△ ・思考・判断・表現△ ・主体的に学習に取り組む態度△	<b>領域別</b> ・数と計算△ ・図形△ ・変化と関係△・データの活用△ <b>観点別</b> ・知識・技能 △ ・思考・判断・表現△ ・主体的に学習に取り組む態度 △ (第4学年時)	/
第6学年	<b>領域別</b> ・数と計算△ ・図形△ ・変化と関係▼・データの活用▼ <b>観点別</b> ・知識・技能△ ・思考・判断・表現▼ ・主体的に学習に取り組む態度▼	<b>領域別</b> ・数と計算△ ・図形△ ・変化と関係△・データの活用△ <b>観点別</b> ・知識・技能△ ・思考・判断・表現△ ・主体的に学習に取り組む態度△ (第5学年時)	<b>領域別</b> ・数と計算△ ・量と測定△ ・図形△ ・数量関係△ <b>観点別</b> ・関心・意欲・態度△ ・数学的な考え方△ ・数量や図形についての技能△ ・数量や図形についての知識・理解△ (第4学年時)

(2)分析

4年	<p>正答率は領域別、観点別ともにすべて目標値を上回っている。          ○特に、「データの活用」領域の正答率が高く15ポイント程上回った。          ●身近にあるものの長さを推察して適切な単位を選択する問題の正答率が目標値を2ポイント程下回った。学習したことを日常生活の中で生かす力が不十分である。          ●身近にあるものの重さを推察する問題の正答率が目標値を2ポイント下回る程度だった。はかりの目盛りを読む問題の正答率が大きく下回ることから、目盛りを読む技能は身に付いているが、学習したことを日常生活の中で生かす力が不十分である。</p>
5年	<p>正答率は、領域別、観点別ともにすべて目標値を上回っている。          ○小数や分数の加減計算の正答率は高く、基本的な計算技能は身に付いている。また、伴って変わる二つの数量の関係を式に表す問題は、目標値を10ポイント程上回った。          ●角の大きさの見当をつける問題の正答率は目標値を4ポイント程下回った。分度器の目盛りを読む技能とともに、90度や180度より大きい小さいかの見当を付ける力が十分ではない。          ●小数×整数の文章問題を表した図を理解する問題の正答率が8ポイント程下回った。計算力は付いてきているが、文章問題を読み取る力が不十分である。</p>
6年	<p>正答率は「変化と関係」が目標値を4ポイント、「データの活用」が目標値を5ポイント程下回っているが、その他は目標値を上回っている。          ○小数や分数の加減計算の正答率は高く、基本的な計算技能は身に付いている。合同な図形を選んだり、台形の面積を求めたりする問題の正答率も高く、知識がしっかり定着している。          ●「円グラフや帯グラフ・平均」の正答率が5ポイント程下回った。特に、測定値のデータが1つ増えたときの新たな平均値を求める問題の正答率が9ポイント程下回った。          ●「割合」の正答率が10ポイント程下回った。特に、与えられた表のデータから割合を求める問題の正答率が15ポイント程下回った。また、割引きについて考える問題の正答率も7ポイント程下回った。日常生活に即した問題場面を捉え、順序立てて考える力が不十分であったと考えられる。</p>

3 重点課題

1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10まで「のたし算、ひき算の計算を速く正しくすること。</li> <li>・10のまとまりを意識して、繰り上がりや繰り下がりのある計算をすること。</li> <li>・たし算、ひき算の違いを理解して立式すること。</li> <li>・数的な感覚を身に付けること。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がりや繰り下がりのある計算を確実にできるようにすること。</li> <li>・かけ算について理解し、九九を確実に覚えること。</li> <li>・ものさしを適切に使い、長さを測ったり直線を引いたりすること。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四則計算を速く正しくすること。</li> <li>・時刻や時間を求めること。</li> <li>・文章問題や思考力を必要とする問題を自力で解決し、自分の考えを説明すること。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重さや長さなどの単位の理解を定着させること。</li> <li>・mm、cm、m、kmやmg、g、kgなどの関係性を理解すること。</li> <li>・量感を身に付けること。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角度の測定の技能を十分に身に付けること。</li> <li>・文章問題を正しく読み取り、式を立てたり、図に表したりすること。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を正しく理解し、立式を行うこと。</li> <li>・与えられたデータの中から、正確に情報を読み取ること。</li> <li>・日常生活でも数学的に考えることができるようにすること。</li> </ul>

#### 4 授業改善策

1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間を活用して、繰り返し計算練習に取り組み、計算力を高める。</li> <li>・ブロックを操作したり、図や計算の仕方をノートに書いたりする活動を設定する。その際、10のまとまりで考えることの良さに気付かせ、活用できるようにする。</li> <li>・立式場面で、どうしてその式になったか根拠を説明し合い、理解を確かなものにする。</li> <li>・具体物を使って、実際に比べたり、測ったりする活動を多く取り入れ、数や量の感覚が身に付くようにする。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算問題を帯学習として取り入れ、継続して取り組む。</li> <li>・家庭学習カードを使用し、家庭と連携して、九九を覚えるようにする。</li> <li>・「長さを測る」「水のかさを量る」など、体験的な学習を通して量感を養う。</li> <li>・日常的にものさしを使って直線を引く経験を積み重ねたり、長さを測ったりさせる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算やわり算などの単元や朝学習の時間に、計算問題を多く行う。</li> <li>・時刻や時間を求める問題に多く触れさせ、単元が終わっても朝学習の時間を使い、定期的に復習する。</li> <li>・文章問題や思考力を必要とする問題を自力で解くことができるよう指導するとともに、問題に多く触れさせる。</li> <li>・自分の考えをノートやタブレット端末を用いて表現し、発表する機会を設ける。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に長さや重さを測る学習を十分にさせる。</li> <li>・単位を学習することが少ないため、忘れてしまうことがある。朝学習の時間などで復習を行う。</li> <li>・全体指導では、ICT機器等を活用して、視覚的に理解させる。</li> <li>・習熟度別指導を行い、一人一人丁寧に指導していくことにより、自力で解決する時間を設定し、習熟度を確認する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体指導では、ICT機器等を活用して、角度の測定や作図の方法を視覚的に理解させる。</li> <li>・文章問題を解決する際に、根拠となる部分に線を引き、求めることが何なのかを理解させる。また、計算の仕方などで、数直線、図、言葉などいろいろな方法を用いて考えさせたり、説明させたりする活動を多く取り入れる。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の意味を考えさせる活動の時間を確保し、数直線や図などを用いて正しく立式することを繰り返し行う。</li> <li>・算数だけでなく他教科でも、グラフや表から情報を読み取る学習を多く取り入れる。</li> </ul>
全学年 共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別指導を行い、個に応じた指導を行う。またその際、必要に応じて授業のはじめに既習事項を復習する時間を設定し、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・ICT機器等を活用して視覚的に理解させたり、数学的活動を取り入れたりする。</li> <li>・平日の放課後の算数力UP教室や土曜補習教室を活用し、不十分な学習の定着を図る。</li> <li>・朝学習の時間などを活用し、ステップアップ学習や東京ベーシック・ドリル等のタブレット端末、プリント学習等に繰り返し取りこませる。また、授業だけでなく、家庭と連携して知識・技能の習得に努める。</li> </ul>